

令和4年度2月度小WG、令和5年度第1回研究WG(全体)活動報告

はじめに

倫理委員会では、令和4年度より3つの小WGで活動を開始しています。令和5年1年31日(火)にC班(未来班)、令和5年2年15日(水)にA班(過去班)、令和5年3年1日(水)にB班(現在班)の小WG活動を行いました。また、令和5年4月19日(水)に令和5年度第1回倫理委員会研究WG(全体)を、かでの2・7の730研修室にて開催いたしましたので報告いたします。

1. 令和4年度第3回C班(未来班)小WG(出席8名)

C班(未来班)は「技術者倫理の今後のあり方」を活動テーマ(案)としてします。これまでに、第1回を令和4年9月6日(火)に「小WGの今後の流れ、AI原則って何だろう?」、第2回を令和4年11月8日(火)に「AI原則の国内企業事例」といった内容で活動を開始しています。

(1) 技術者倫理の歴史と哲学から考えるAI・自動化

佐藤委員より京都大学で行われたフォーラムの紹介があり、下記のようにまとめられていました。

①技術者倫理は歴史の中で変遷してきているが、その中で使用者への配慮、公衆への配慮等の要因は継続・強化してきている。②技術者倫理の根拠はいくつか考えられる。アメリカでは暗黙の契約という考え方が有力だが、日本では内発的な動機が重要かもしれない。③AIや自動化についてはAIの責任、成長、ブラックボックス化などの要因が目立つ。④技術者の立場からは公衆の安全・健康・福利を最優先するという基本線を揺るがさないことが大事だが、それは、変化を拒むということと同じではない。

(2) SNSを取巻く話題(本橋委員)

SNS運営者における倫理的な観点では、各運営者が共通している倫理観として、「テクノロジーや公

共の安全」「人権・文化」「法令等」の項目が利用規定やコミュニティ規定などで示されていると説明がありました。また、他の技術同様に提供者と使用者両者の倫理観が重要で、提供者はトラブルを未然に防止することや解決に努めなければ社会的責任を果たすことができない。また一方で、使用者においては、規定や規約を遵守することで社会の秩序を保たなければならないといった説明がありました。

(3) 今後の技術者のあり方(高橋委員)

①生死観などの本質的な倫理、②現実を突きつけられた日本政府の対応、③民族的な倫理と犯人捜し、④背景は技術が多岐で専門性も深いため、⑤免責と心情、⑥モデルケースを心理面で分解、⑦前記を子宮頸がん及びCOVID19にフィードバックしてみる、⑧国内のモラルやマナー、価値観の変化、⑨価値観などが変化した事例、⑩今後の技術者のあり方、倫理は?、⑪まとめ といった内容で説明がありました。委員からは、「仕事をする環境も変化した、世論に迎合して判断していく側面と、我々技術者のように世論に迎合せず技術的判断をしている側面もある。世論の正解が本当の真実なのか? 技術者倫理は世論に左右されないのが本質ではないか?」と質問があり、これらについて議論されました。

2. 令和4年度第3回A班(過去班)小WG(出席8名)

A班(過去班)は「古典や宗教に学ぶ技術者倫理」を活動テーマ(案)としてします。これまでに、第1回を令和4年9月1日(木)に「検討内容の洗い出し・着眼点、活動内容・方向性等の議論」、第2回を令和4年10月24日(月)に「過去班の着眼点(山本案)の補足、宗教・倫理・哲学等について」といった内容で活動を開始しています。

(1) A班(過去班)の活動方針について再検討

研究WG(全体)に向けて、前回までの話題提供等から、過去班の活動テーマについて議論を行い、見直しを行いました。大テーマを「技術者倫理の変遷と教訓」、中テーマを「本来の共有倫理観」「文明・文化に倫理あり」「技術者倫理の根本原理」、小テーマを「宗教的倫理観」「哲学者による倫理」「古代文明の倫理観」「先達の倫理学再考」「土木の先人達における技術者倫理」としてみました。今後これらのテーマは変更していくともありますが、令和5年度はこのようなテーマで活動を行います。

(2) 倫理等について話題提供(佐々木幹事長)

倫理・哲学(西洋・東洋)・思想等の体系から、3つの倫理学である規範倫理学、メタ倫理学、応用倫理学について概略説明がありました。このうち応用倫理学を除けば、倫理委員会がこれまでに研究してきたのは規範倫理学であり、規範倫理学の3つの立場(功利主義、義務論、徳倫理学)を紹介しています。過去班の論点として、古くから続く思想の体系を基に、現在と過去、地域による違いといった観点で価値や存在の根拠となるもの及びその変遷等について研究テーマとし、この検討結果を現代の技術者倫理に生かせるのか、現在班、未来班の議論へ結び付けられるかを考えようといった議論を行いました。

3. 令和4年度第1回B班(現在班)小WG(出席6名)

B班(現在班)は「技術者倫理の現在」を活動テーマ(案)としてします。メンバーの業務多忙等でこれまで活動が行えていませんでしたが、今回から活動を開始することとなりました。

(1) B班(現在班)の活動方針について検討

現在班の活動テーマについて議論を行いました。大テーマを「技術者倫理の現在」、中テーマA群を「技術者の倫理的責任」「技術者倫理を支える方法論」「道徳的ジレンマと価値」、B群を「規制条件下での倫理観」「時代ジレンマの凌駕」「他者技術者との連携」、小テーマA群を「環境問題」「人口問題・南北問題」「内部告発」、B群を「弱者/強者創始」「倫理要綱の是非」「倫理教育・教訓」としました。今後テーマは変更していくともありますが、令和5年度はこのようなテーマで活動を行います。

4. 第1回研究WG(全体)(出席:会場18名、Web3名)

(1) 第13回技術者倫理フォーラムの開催について

令和5年度開催の第13回技術者倫理フォーラムを6月22日(木)にホテルポールスター札幌にて、昨年と同様にハイブリッドで開催いたします。なお、基調講演は北海道大学の石川達也教授にお願いしています。当委員会のWG活動報告は小WGのC班(未来班)から本橋委員と高橋委員が中心となって発表を行う予定となりました。

(2) 技術士全国大会の準備対応等について

北海道で開催される技術士全国大会への準備対応等について富澤委員長よりこれまでの役員会報告などの状況について報告がありました。また、全国大会では例年「技術者倫理情報連絡会」が開催され、北海道開催時でもこれらの運営補助を北海道本部倫理委員会で行うこと、それとは別個に分科会を1つ担当する可能性があることについて説明があり、他委員会等と協働して実施すること等について委員全体で疑問点等について意見交換を行いました。

(3) 技術者倫理フォーラムでの小WG発表内容

本橋委員と高橋委員作成の資料を基にC班(未来班)小WGの活動について佐藤委員が代理で報告してもらいました。前半は本橋委員が発表する「AI倫理とは」です。発表内容はこれまでの小WG活動の内容をとりまとめたもので「①新技術に対する倫理、②新技術に対する企業倫理、③新技術倫理と文化の関わり」といった構成です。後半は高橋委員が発表する「今後の技術者のあり方」です。先ほどの「③新技術倫理と文化の関わり」の中で、「普遍的倫理(=正義感)と民衆の感情を繋ぐインターフェース(連結器)」「倫理観の普遍性と可変な部分の認識」にフォーカスした説明の後、委員から様々な意見があり、それらを基に内容を検討していきます。

おわりに

第13回技術者倫理フォーラムを令和5年6月22日(木)に開催予定です。倫理委員会としてはハイブリッド開催することを基本的方針としています。詳細はEPOやホームページを通じてお知らせすることになるかと思っておりますので、そちらをご確認ください。みなさんの参加をお待ちしております。